

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

壁にぶつかっても、
あきらめず前へ！

『夢をあきらめなければ宇宙にだって行ける』
星出彰彦（1992年理工学部卒）著
すばる舎／1620円（2014年3月）



本誌「塾員山脈」でも紹介したJAXA宇宙飛行士・星出彰彦君の初の単著作。宇宙飛行士選抜試験に3度目の挑戦でようやく合格した著者が、厳しい訓練の様子、2008年に初めて飛んだ宇宙、2012年の国際宇宙ステーション（ISS）への長期滞在ミッションなどを、鮮明な写真とともに振り返る。「人生に、夢に、回り道や失敗はあっても、その経験は次に生きます。どうか、皆さんの夢がかないますように」というメッセージは、宇宙への夢をあきらめなかった著者が放つからこそ、私たちの胸の奥深くに届く。巻末インタビューは、地上勤務の仲間聞いた著者の素顔。こちらも必読だ。

教職員執筆の新刊

● 上山信一（総合政策学部教授）著

『組織がみるみる変わる 改革力』朝日新書／778円（2014年3月）

● 前野隆司（大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）編著

『システム×デザイン思考で世界を変える―慶應SDM「イノベーションのつくり方」』日経BPP社／1944円（2014年3月）

● ティモシー・スナイダー著、池田年穂（薬学部教授）訳

『赤い大公―ハプスブルク家と東欧の20世紀』慶應義塾大学出版会／4968円（2014年4月）

● 山本晶（大学院経営管理研究科准教授）著

『キーパーソン・マーケティング―なぜ、あの人のクチコミは影響力があるのか』東洋経済新報社／1620円（2014年4月）

● 岡本英敏（湘南藤沢中等部・高等部教諭）著

『福田恆存』慶應義塾大学出版会／2808円（2014年4月）

● 中島隆信（商学部教授）著

『経済学ではこう考える』慶應義塾大学出版会／1620円（2014年5月）



慶應義塾この一冊

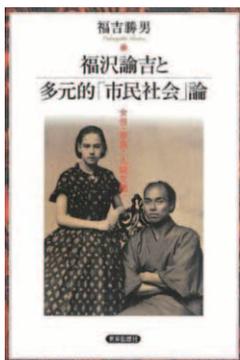
『福沢諭吉と多元的「市民社会」論』

―女性・家族・「人間交際」―

福吉勝男著

世界思想社／4104円

（2013年9月）



福澤諭吉は「男尊女卑」を厳しく批判し、男性と女性を「自由独立」した平等な立場の人間として位置づけた。個人と家族の次元から対等な男女関係をつくり上げていくこそが日本の近代化・文明化につながる。女性の自立や男女対等な夫婦関係が重要だと考えたのである。本書では、「Citizen」市民の訳語を日本で最初に用い、自立した個人から成る市民社会を目指した福澤の、哲学者ヘーゲルに相通じる市民社会像を読み解く。女性や家族の問題をも取り込んだ多元的「市民社会」論として、その思想の特徴に迫る。